Eat Well, Live Well.

AJINOMOTO

味の素株式会社
個人投資家向け 会社説明会

（東証プライム　2802）

取締役　代表執行役社長　最高経営責任者

藤江　太郎

2024年12月17日

自己紹介

藤江　太郎

1961年生まれ

1985年　味の素㈱入社　人事部

1989年　神戸営業所

1994年　味の素労働組合専従

2006年　味の素中国有限会社

2008年　中国食品事業部長

2011年　フィリピン味の素社社長

2015年　ブラジル味の素社社長

2021年　執行役専務・食品事業本部長

2022年　取締役 代表執行役社長

大阪府に生まれ育つ

ウインドサーフィンに
没頭した学生時代

看板車で営業

海外赴任時も
積極的に現場へ

趣味は料理

Copyright © 2024 Ajinomoto Co., Inc. All rights reserved.

本日の内容

1　味の素グループについて

2　電子材料事業

・味の素ビルドアップフィルム®（ABF）とは

・研究員によるABFのご説明

・台素社員によるグローバルネットワークのご説明

3. 成長戦略・株主様への還元

*本資料における事業利益（連結ベース）：
売上高－売上原価－販売費・研究開発費及び一般管理費＋持分法による損益

味の素グループ　創業の経緯と志

「うま味」の発見者
池田 菊苗
（東京帝国大学 教授）

創業の志

「食を通じた社会への貢献」

うま味を通じて日本人の栄養を改善したい

1909年、昆布だしに含まれるアミノ酸（うま味成分）から「味の素®」を商品化

初代「味の素®」

味の素グループ創業者
二代　鈴木 三郎助

現在の志

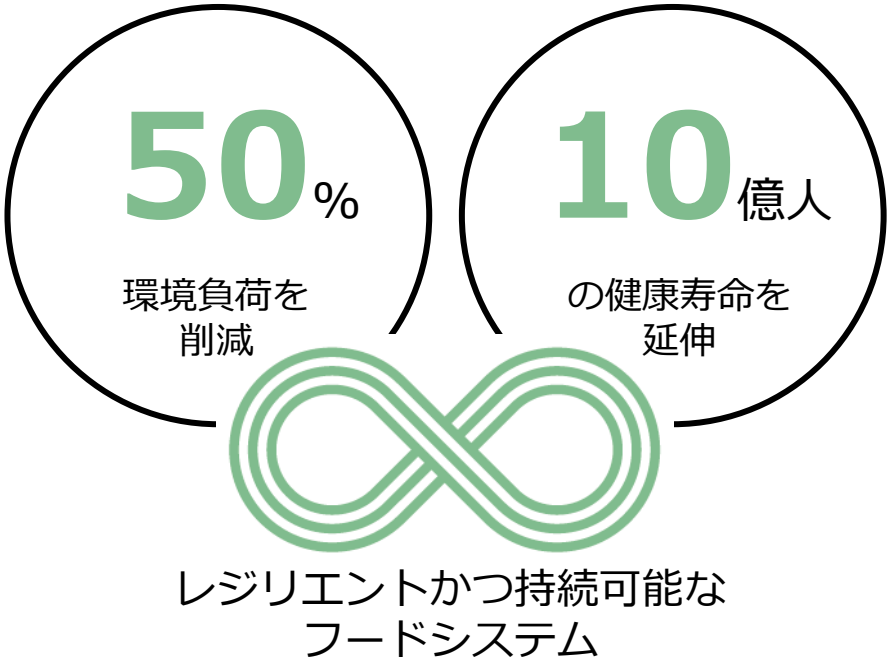
アミノサイエンス®で、人・社会・地球のWell-beingに貢献する

Copyright © 2024 Ajinomoto Co., Inc. All rights reserved.

志を実現する取り組み　ASV

ASV (Ajinomoto Group Creating Shared Value)
事業を通じ、社会価値と経済価値を共創

アミノサイエンス®で、人・社会・地球のWell-beingに貢献する

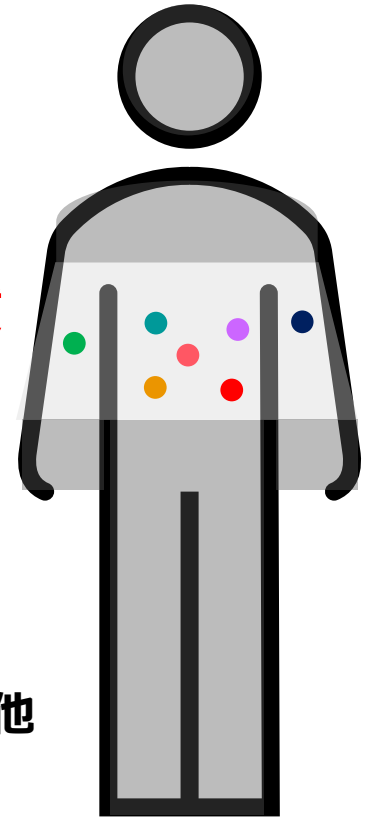


Copyright © 2024 Ajinomoto Co., Inc. All rights reserved.

アミノ酸とは

アミノ酸とは、たんぱく質を構成する成分のこと。
筋肉、消化管、内臓、髪や皮膚のコラーゲンなど、カラダの重要な組織を作るたんぱく質の素。

ヒトの体の構成比



脂質
15%

たんぱく質
20%

水分
60%

糖質/その他
5%

アミノ酸

母乳に含まれるたんぱく質には、必須アミノ酸※をはじめとするアミノ酸がバランス良く含まれる。

そのため、赤ちゃんは、母乳だけでも成長。

※体内で合成できず、食事から摂取することが不可欠なアミノ酸

Copyright © 2024 Ajinomoto Co., Inc. All rights reserved.

アミノサイエンス®とは

アミノサイエンス®とは、

アミノ酸のはたらきに徹底的にこだわった研究プロセスや実装化プロセスから得られる多様な素材・機能・技術・サービスの総称。また、それらを社会課題の解決やWell-beingの貢献につなげる、味の素グループ独自の科学的アプローチ。

アミノ酸

**すべての生きものの
のカラダをつくる
基本物質**

カラダのさまざまな
機能を担う

アミノ酸のはたらき

呈味機能
おいしくする

生理機能
体の調子を整える

栄養機能
栄養を届ける

反応性
新たな機能を生み出す

価値の創出

味の素グループの事業活動

食品系事業

アミノサイエンス®を
調味料・食品、冷凍食品に
活かした事業展開

バイオ＆ファインケミカル系事業

アミノサイエンス®をヘルスケア等
に活かした事業

Copyright © 2024 Ajinomoto Co., Inc. All rights reserved.

味の素グループ　アミノサイエンス®をベースとする事業展開

食品系事業

バイオ＆ファインケミカル系事業

本日ご説明↓

味の素ビルドアップフィルム®
（電子材料事業）

気づけば変わる、未来が広がる。
アミノインデックス®

BIO•PHARMA SERVICES

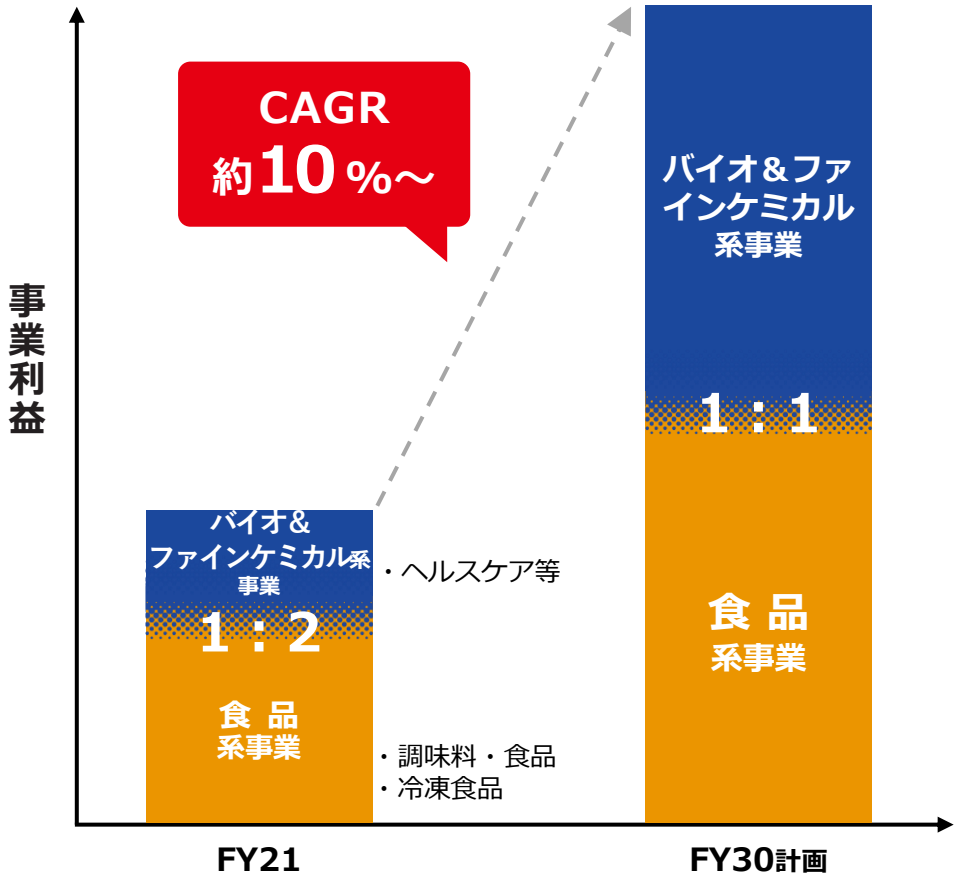
AJIPHASE®

AJICAP®

Copyright © 2024 Ajinomoto Co., Inc. All rights reserved.

2030年に向けた味の素グループの成長

2030年に向け、毎年約10%の利益成長を目指す。ICTを含む４つの成長領域を定め、アミノサイエンス®による価値創造で、高収益かつユニークな企業へと進化させる。



４つの成長領域

ヘルスケア

治療や予防の進化と、
健康寿命の延伸への貢献

フード&ウェルネス

食を通じたWell-beingと
自己実現への貢献

ICT

半導体の進化と、スマート
社会への貢献

グリーン

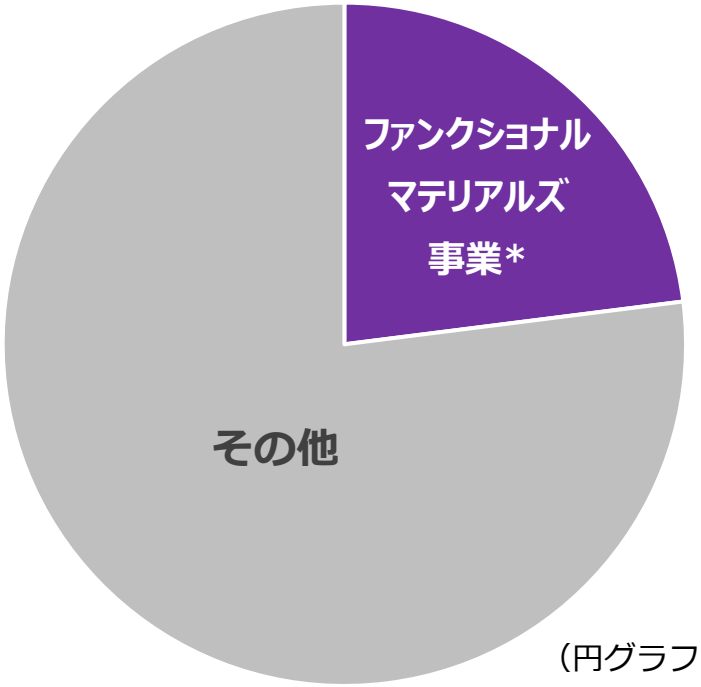
新しい食のスタンダードの創造
循環型バイオサイクルへの転換

Copyright © 2024 Ajinomoto Co., Inc. All rights reserved.

ファンクショナルマテリアルズ（電子材料等）の事業利益

ファンクショナルマテリアルズ（電子材料等）は、全社事業利益の約４分の１を占める。

全社事業利益に対する、ファンクショナルマテリアルズ（電子材料等）の割合



*電子材料のほか、接着剤などの機能性材料を含む

（円グラフは2024年度の中間期実績）

Copyright © 2024 Ajinomoto Co., Inc. All rights reserved.

なぜ味の素グループが電子材料？

半導体向け電子材料、味の素ビルドアップフィルム®は、味の素®の副産物を活用したイノベーションへの挑戦から誕生。廃止寸前まで追い込まれながらも、複数年にわたる研究を経て、全く新しい分野を開拓した。

＜電子材料事業誕生についてのご紹介＞

URL: 味の素グループ挑戦の物語（電子材料ビジネス篇）

Copyright © 2024 Ajinomoto Co., Inc. All rights reserved.

本日の内容

1　味の素グループについて

2　電子材料事業

・味の素ビルドアップフィルム®（ABF）とは

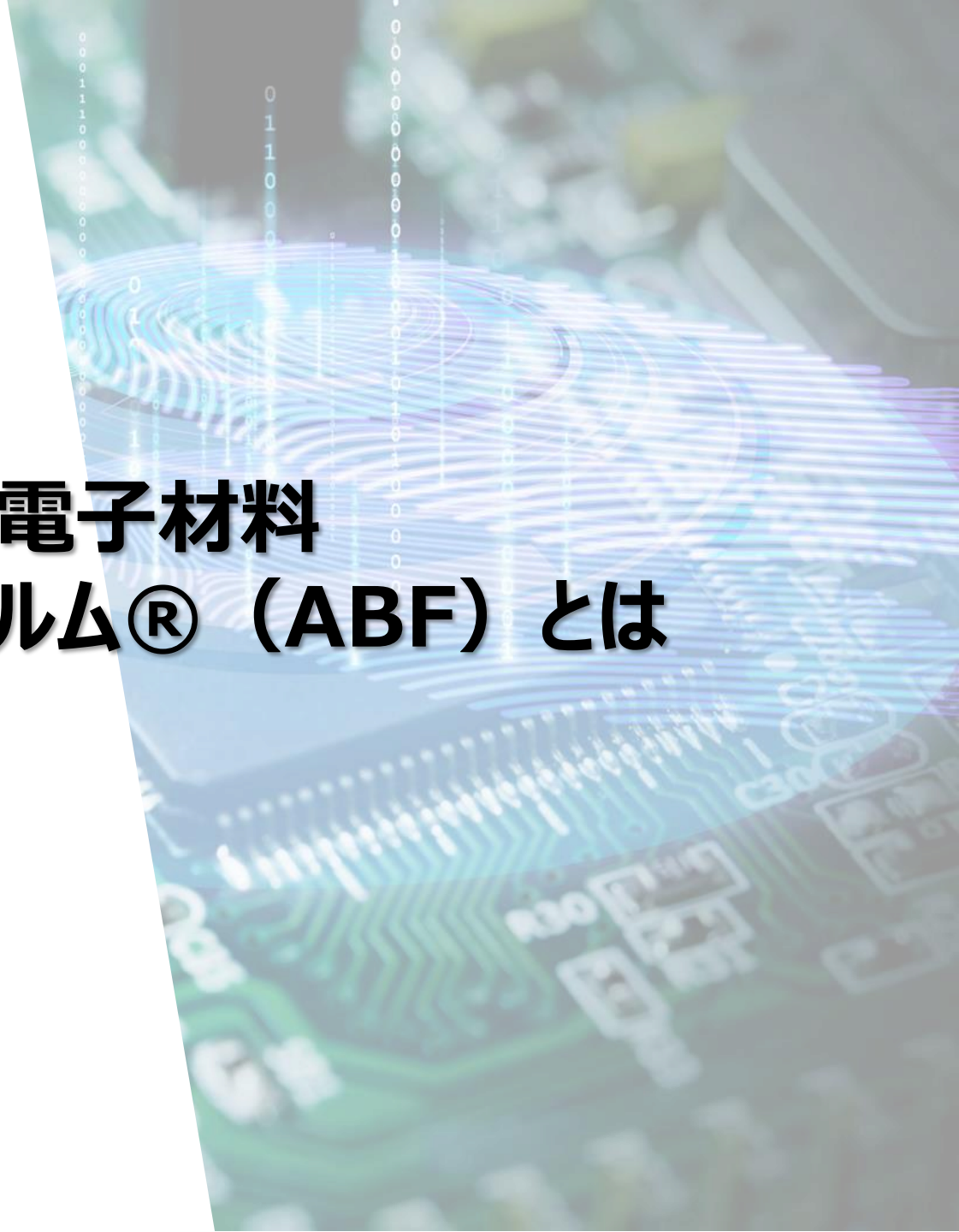
・研究員によるABFのご説明

・台素社員によるグローバルネットワークのご説明

3. 成長戦略・株主様への還元

*本資料における事業利益（連結ベース）：
売上高－売上原価－販売費・研究開発費及び一般管理費＋持分法による損益

半導体向け電子材料
味の素ビルドアップフィルム®（ABF）とは

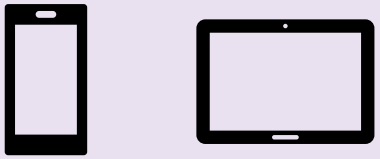


半導体とは

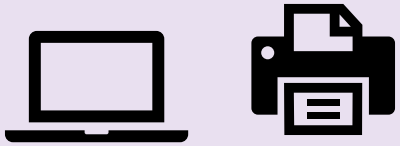
半導体は、電気を通す/通さないの両方の性質を持つことで、機器を正しく制御する役割を果たす。生活に欠かせない様々な機器に使用されている。

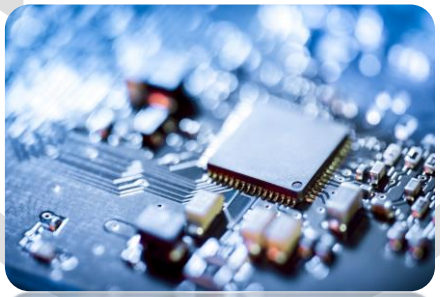
家電製品・AV機器

情報端末



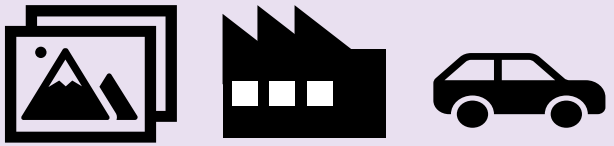
PC・OA機器





半導体

AI（人工知能）



画像処理　自動化工場　自動運転

Copyright © 2024 Ajinomoto Co., Inc. All rights reserved.

半導体とは

PCなどに搭載されるCPUやGPUと呼ばれる半導体は、機器が正しく動くために必要な計算やデータ処理を担っている。

※PCは一例

CPUやGPUのほか、PCにはメモリや保存など、様々な半導体部品が使用されている

CPU(中央演算処理装置)

コンピューター全体の中央演算処理
データ処理、制御などを行う

GPU(グラフィック処理装置)

画像描写に必要な画像処理など
パソコンなどのディスプレイに映像を投影

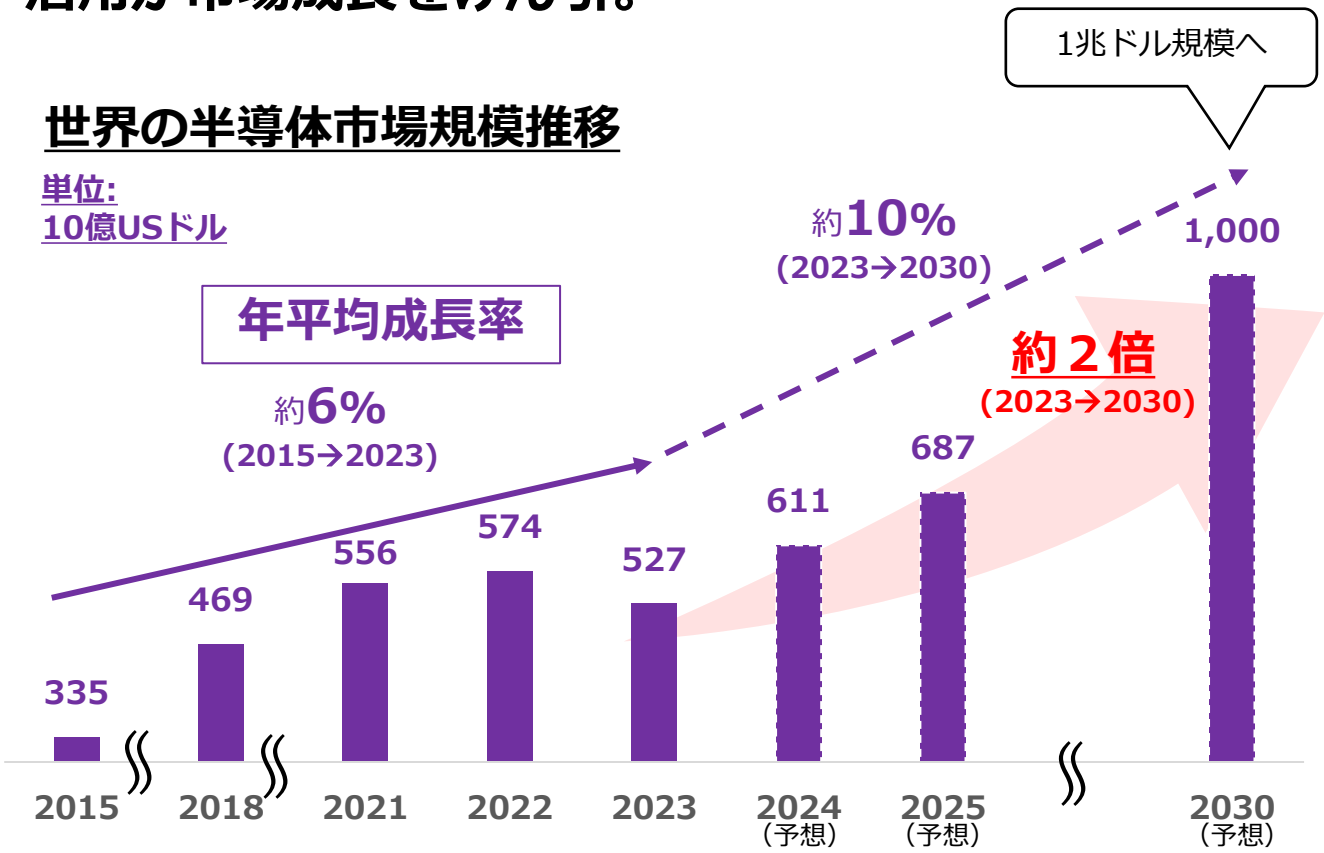
Copyright © 2024 Ajinomoto Co., Inc. All rights reserved.

半導体　市場環境

半導体市場は、今後２倍以上の規模に成長する予想。PC、サーバー・ネットワークなど向けに加え、これまで以上に高精度かつ高速な処理を要するAI用途での半導体活用が市場成長をけん引。

世界の半導体市場規模推移

単位:
10億USドル



出所
2015～2025：WSTS（世界半導体市場統計）2020秋・2024春
2030：SEMIジャパン 半導体市場の市場規模推移 2023年12月

パソコン市場

テレワークやe-ラーニングの拡大

サーバー・ネットワーク市場

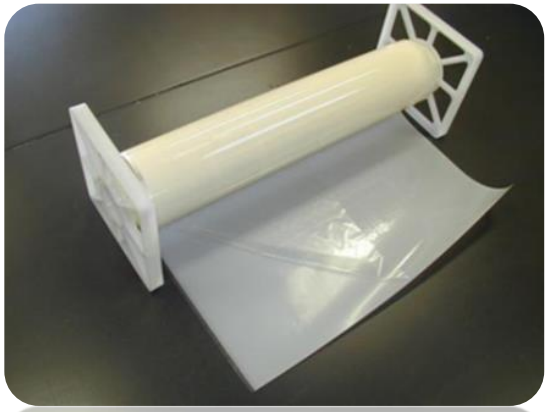
5G到来に伴う
サーバー、通信用途の伸長

更に今後は、AIの利用拡大で半導体の活用も増加の見通し

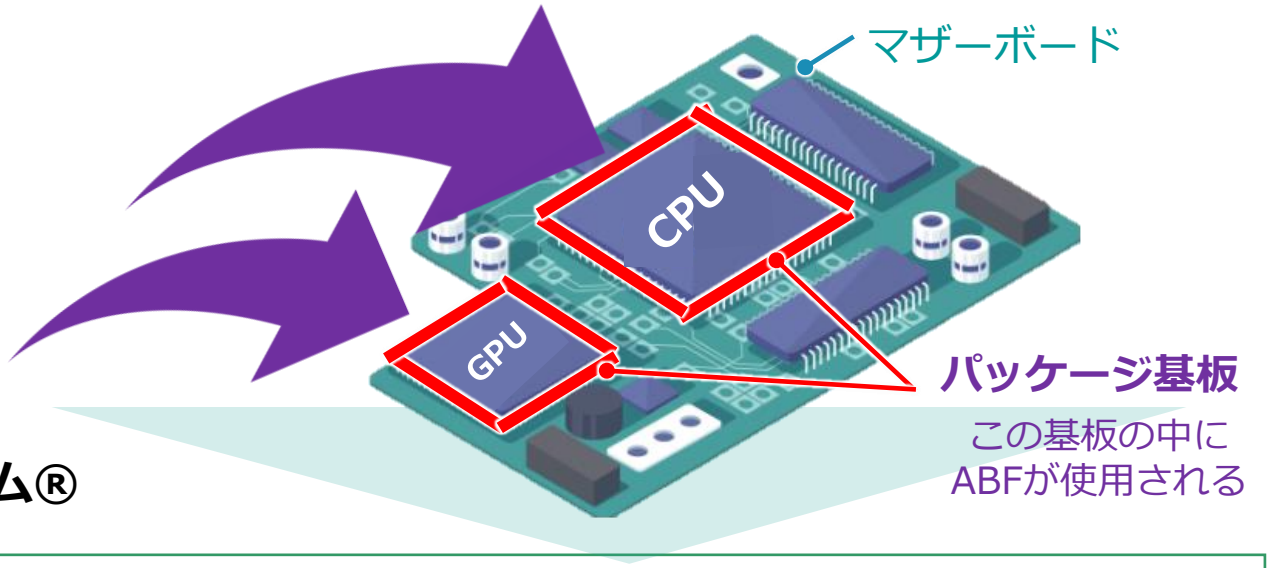
Copyright © 2024 Ajinomoto Co., Inc. All rights reserved.

味の素ビルドアップフィルム®（ABF）とは

当社が1999年に発売した、世界初のフィルム状のパッケージ基板用絶縁材料。
グローバルで**95%以上の高いシェア**を有する。



味の素ビルドアップフィルム®（ABF）



サーバー

パソコン

ネットワーク

ゲーム

AI

サーバーやパソコンを始め、様々な機器の半導体にABFが使用されている

Copyright © 2024 Ajinomoto Co., Inc. All rights reserved.

自己紹介

本間　達也

1983年　北海道生まれ

2011年　味の素㈱入社
バイオファイン研究所電子材料グループ
・ABFなどの開発に従事

2014年　味の素ファインテクノ社
・電子材料向け透明材料、磁性材料などの開発に従事

2021年　2020ASVアワード大賞受賞

2023年　味の素㈱
バイオファイン研究所電子材料グループ

ASV大賞受賞

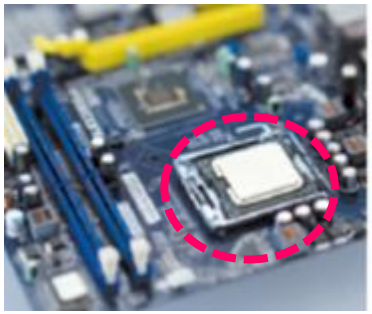
趣味は将棋、ランニング、
カブトムシ飼育

Copyright © 2024 Ajinomoto Co., Inc. All rights reserved.

ABFはどこで使用されるか

ICチップを乗せる「半導体パッケージ基板」に、層間絶縁材料として使用される。

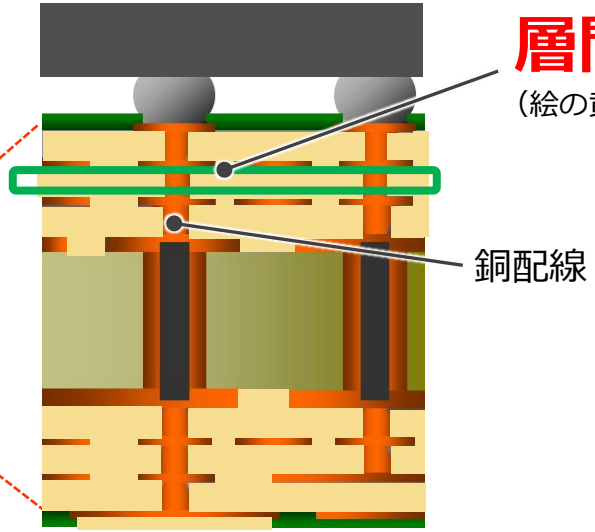
プリント配線基板



半導体パッケージ（CPUなど）

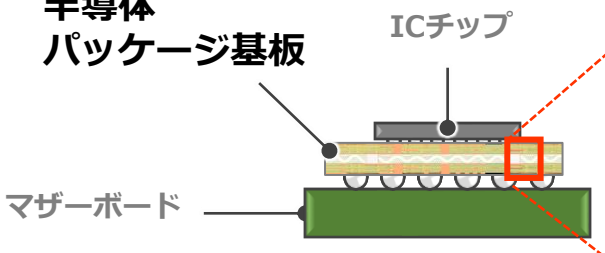
<図②>

半導体パッケージ　断面イメージ

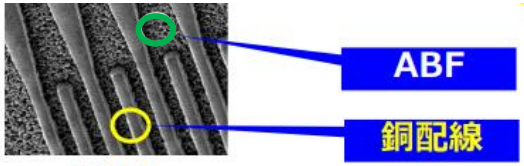


ABF・銅配線が
層として積み重なり、
構成される

<図①>



ABFの上には、最先端の基板に必要な細かい銅配線を形成可能
→最先端の電子回路にも適応できる

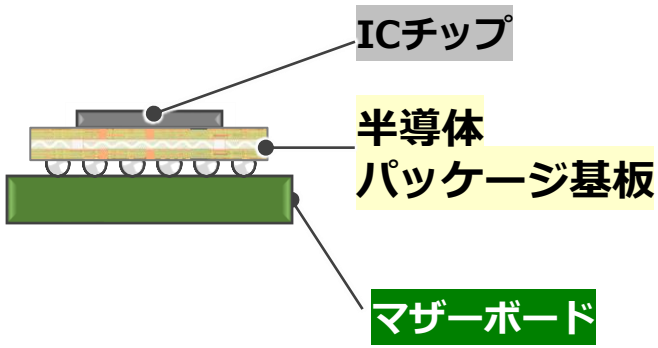


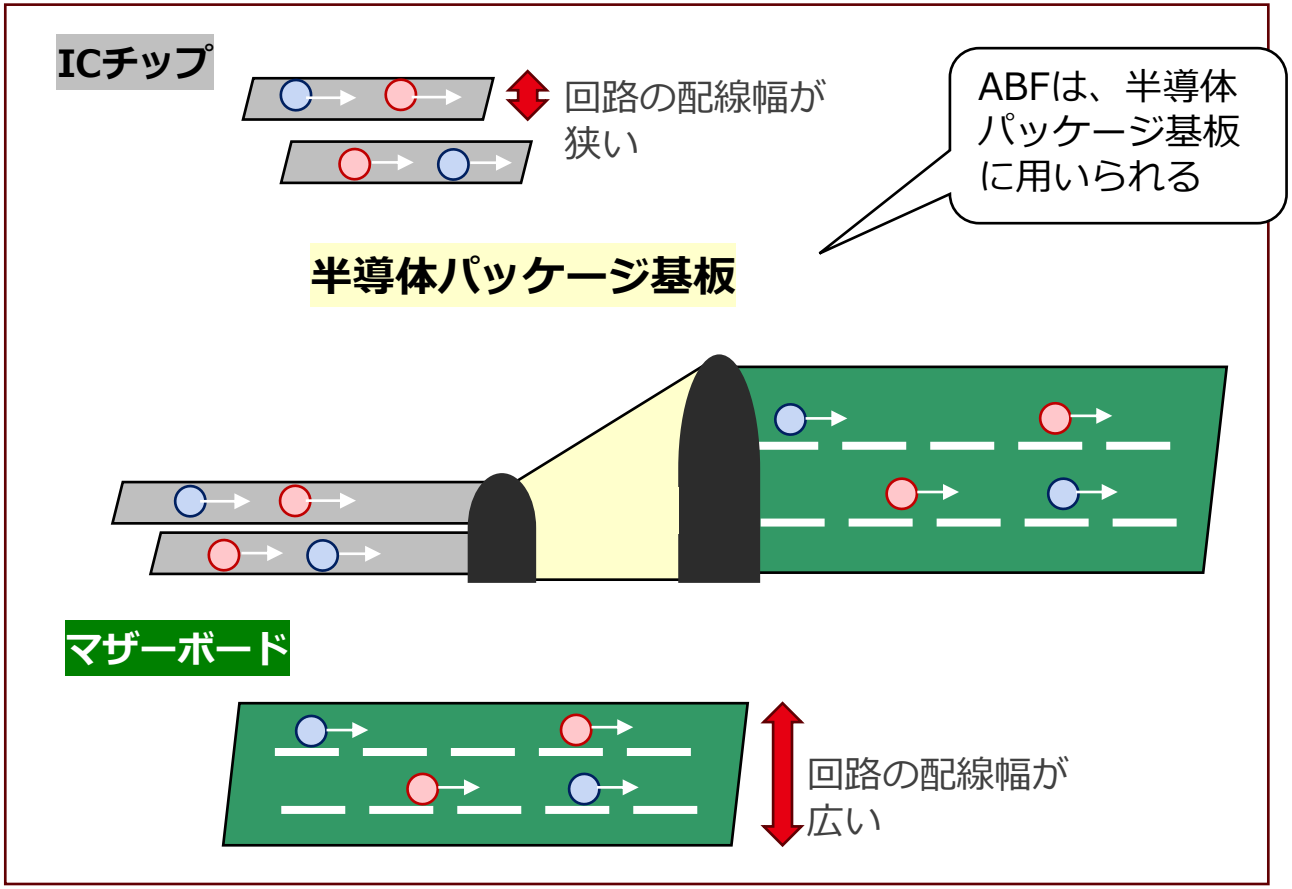
10um
※髪の毛の太さが100um

Copyright © 2024 Ajinomoto Co., Inc. All rights reserved.

半導体パッケージ基板の役割

ICチップとマザーボードを接続し、両者の間で正しく信号や電力を伝える役割を担う。
半導体パッケージ基板は、ICチップとマザーボードの両方と相性が良いことが重要となる。

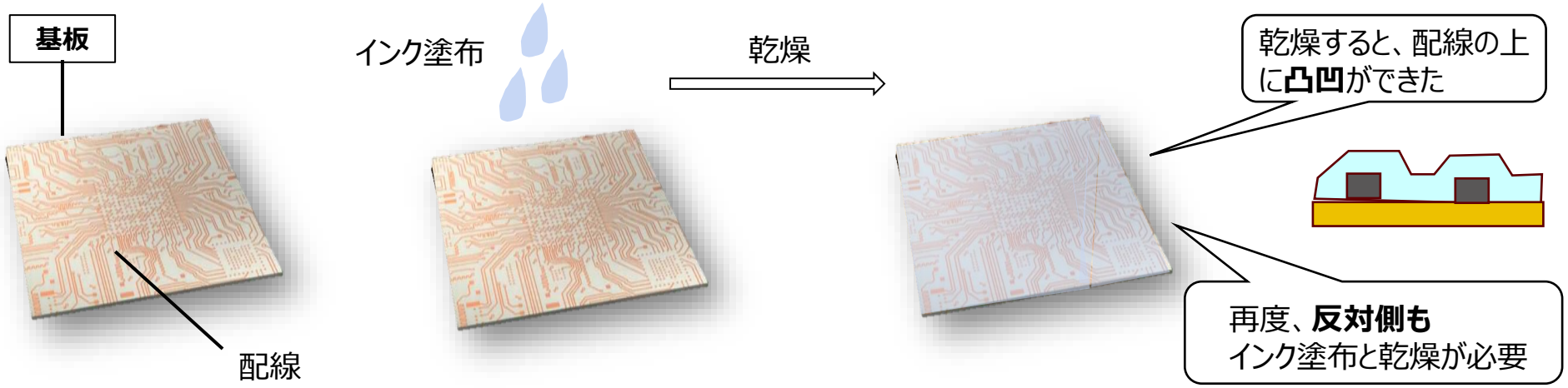




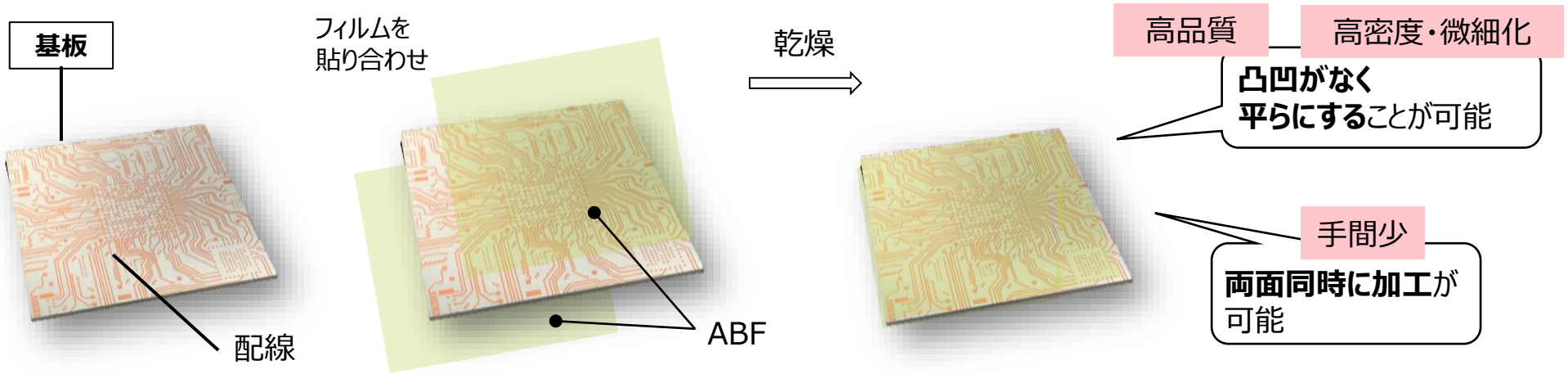
Copyright © 2024 Ajinomoto Co., Inc. All rights reserved.

ABFが起こしたイノベーション

従来技術（インクコーティング法）



ABFを使った技術（ラミネート法）



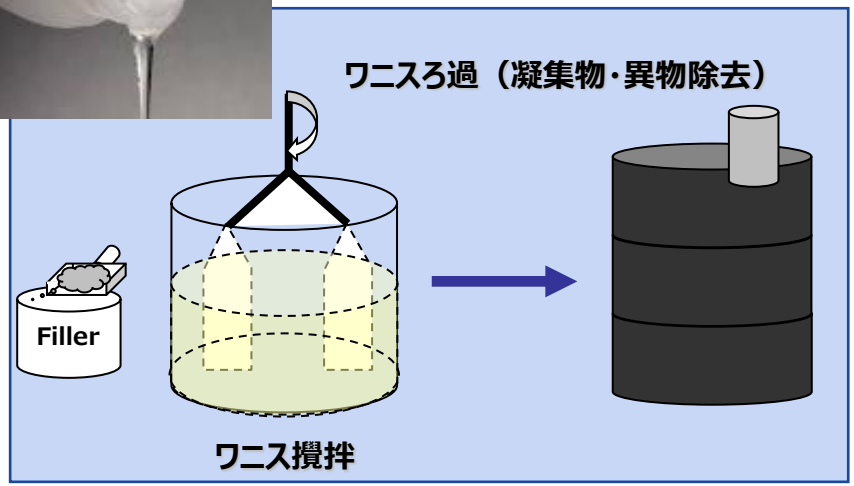
Copyright © 2024 Ajinomoto Co., Inc. All rights reserved.

ABF　生産プロセス

ABFは、樹脂などの材料を混ぜた、ワニスと呼ばれる液体をフィルムに塗ることで、絶縁材料そのもののフィルム化を実現。冷凍保存で出荷。

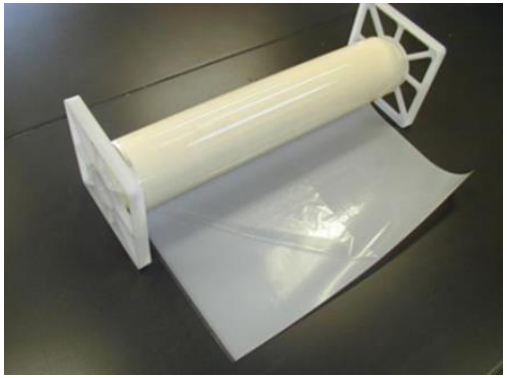
原料混合、ワニス生産 → フィルム化 → 梱包

液体：ワニス



液体のワニスを
フィルムの上に
伸ばして塗る

PETフィルム上にワニスを塗布

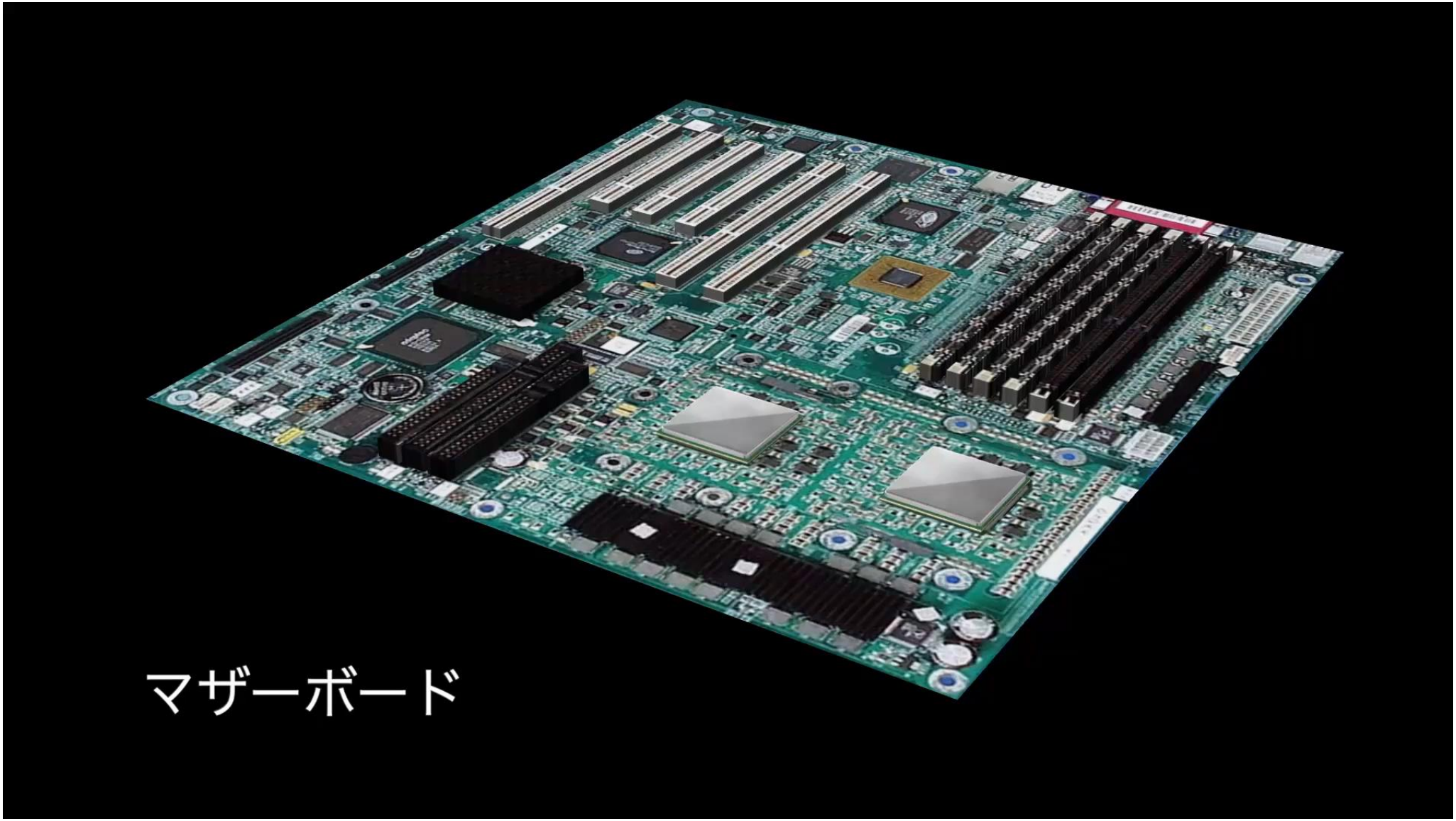


梱包（冷凍保存）

味の素グループの
冷凍食品の
ノウハウを展開

Copyright © 2024 Ajinomoto Co., Inc. All rights reserved.

半導体パッケージ基板のプロセスフロー



Copyright © 2024 Ajinomoto Co., Inc. All rights reserved.

ABF　今後の成長

自動運転やAIなどに使用されるハイ・パフォーマンス・コンピューティング（HPC）向け基板は、パソコンの10倍以上のABFを使用。

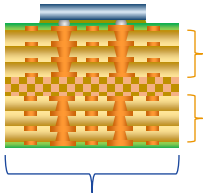
パソコン

ABF使用量

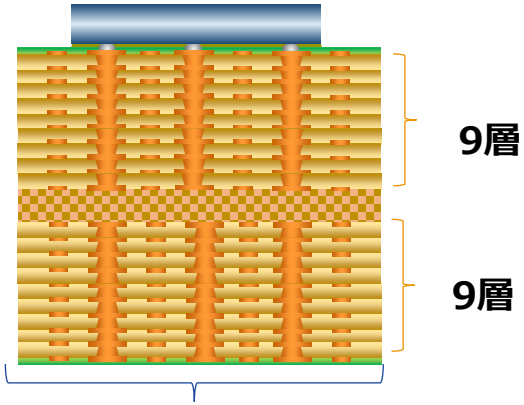
10倍以上

ハイ・パフォーマンス・コンピューティング（HPC）

パソコン向け基板



HPC向け基板



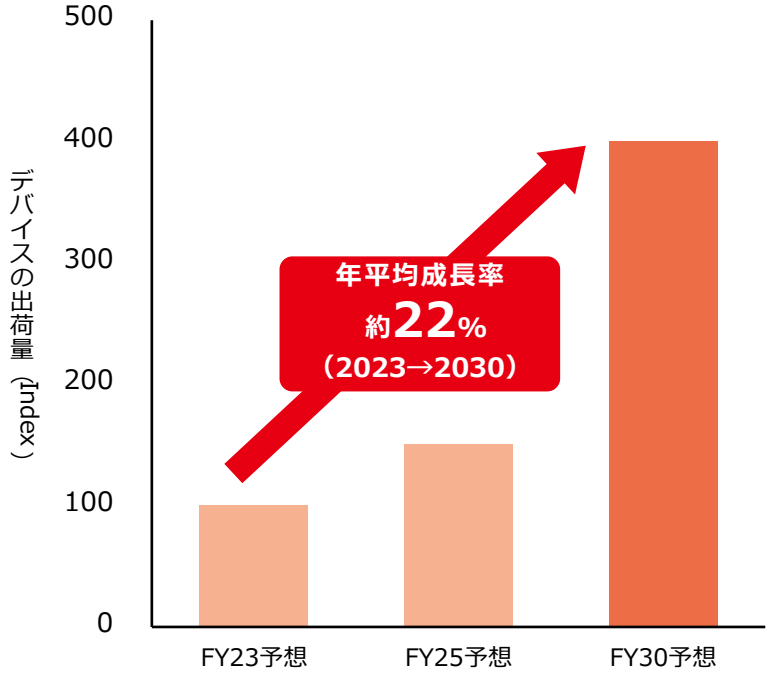
×3倍

ABF　合計６層 → **ABF 合計18層**

基板面積インデックス：１ → **基板面積インデックス：3.5**

×3.5倍

<HPC市場（デバイス）の成長見通し>

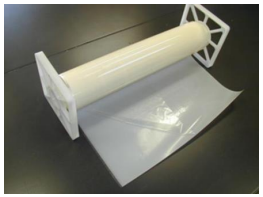


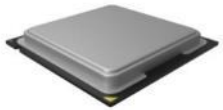
出所：外部調査会社の情報を基に当社推定

Copyright © 2024 Ajinomoto Co., Inc. All rights reserved.

ABFのエコシステム（他社との連携）

ABFの提供先企業のみでなく、バリューチェーン上のすべての会社と密に連携。共創エコシステムでの開発を行っている。この事業モデル変革（BMX）が、ABFの競争優位性を補強している。





サーバー
ネットワーク
パソコン
AIなど

ABF開発プロセス

半導体製造プロセス

基板製造プロセス

原材料メーカー

味の素㈱ 味の素ファインテクノ㈱

✓ 基板処理
✓ 貼り合わせ

✓ レーザー
✓ 銅めっき

薬液メーカー 装置メーカー

基板メーカー

CPUメーカー

電子機器メーカー

Eat Well, Live Well.

味の素グループ

Copyright © 2024 Ajinomoto Co., Inc. All rights reserved.

ABFコアテクノロジーの展開

磁性材料

省電力化に貢献

ABF-RCC

軽量化に貢献

封止材

高信頼性に貢献

磁性フィラー

銅箔

フィラー
高充填

アミノサイエンス®をベースとした
ABFのコアテクノロジー

幅広い技術において価値の高い特許を保有し、参入障壁を構築

Copyright © 2024 Ajinomoto Co., Inc. All rights reserved.

ABFの研究開発の様子

Copyright © 2024 Ajinomoto Co., Inc. All rights reserved.

ICT領域の成長に伴うABFの進化

- ✓ AI半導体の進化にABFが貢献し、今後の成長をドライブ
- ✓ 味の素グループは、将来技術（電気から光へ）に対してもABFの進化技術で貢献していきます。

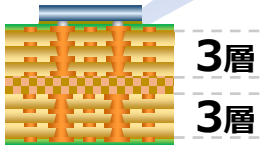
超高速･省電力化へ
（2030以降）

高速化･AI進化
（～2030）

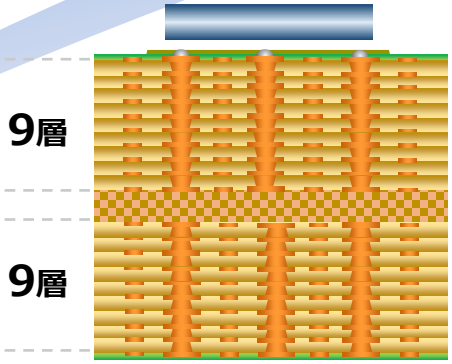
高多層･大型化･微細化
（現在）

基板断面イメージ

ABF



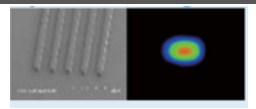
PC



サーバー･データセンター･ネットワーク
（HPC）

AI 半導体

光電融合パッケージ



＋AI（人工知能）
MI(Material Informatics)

AJINOMOTO
共創
エコシステム

半導体進化
コンソーシアム

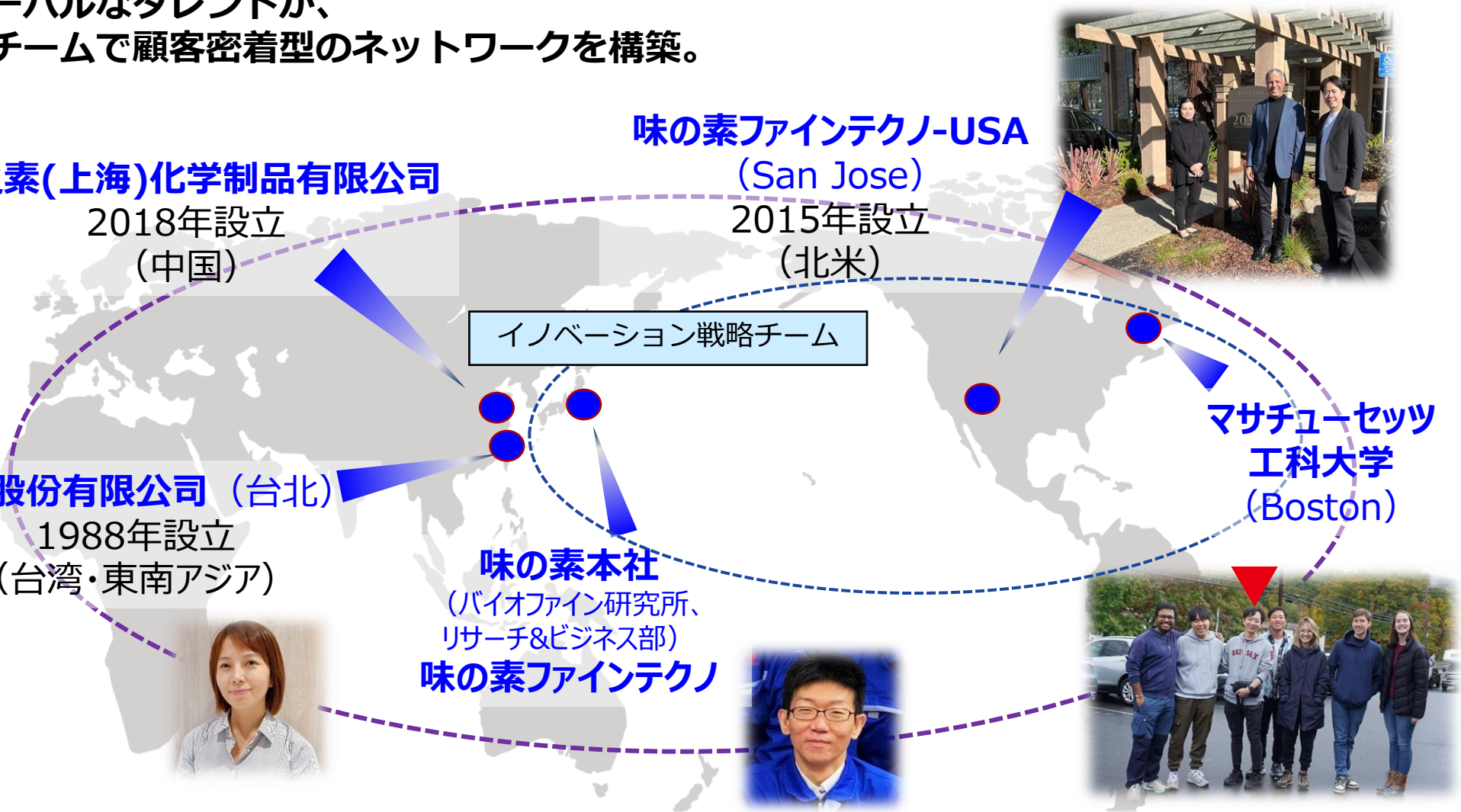
JOINT2

Fraunhofer

Copyright © 2024 Ajinomoto Co., Inc. All rights reserved.

グローバルネットワークの強化

グローバルなタレントが、
ワンチームで顧客密着型のネットワークを構築。



*North American Research & Innovation Center

Copyright © 2024 Ajinomoto Co., Inc. All rights reserved.

自己紹介

名前　林冠吟（LIN KUAN YIN）
ニックネーム：ミカ

所属　台素社
営業二部 電子材料マネージャー

社歴　2011年　台素社入社　電子材料課配属
電子材料の営業、海外市場（中国、東南アジア支援）

2019年　味之素（上海）化学制品社出向
会社設立、電子材料及び香粧品素材の販売

2024年～　出向終了、台素社に復帰

趣味　旅行、スポーツ（ゴルフ、バドミントン）

Copyright © 2024 Ajinomoto Co., Inc. All rights reserved.

台素社概要

正式名称

台素股份有限公司　TAISO COMMERCE INC.

設立

1988年

株主構成

味の素グループ　100%

所在地

台湾台北市

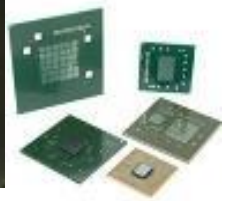
従業員数

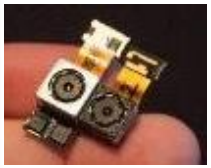
25名
正社員25名、日本人1名含む
(内2名は日本出向中)

＜事業領域＞

ファンクショナルマテリアルズ

ABFや接着剤などの機能性素材





香粧品

化粧品の材料など

離型紙

天然皮革や幾何学などの
柄が型押しされた特殊な紙

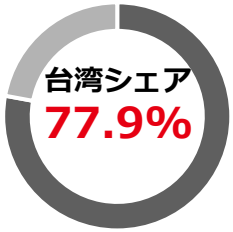
Copyright © 2024 Ajinomoto Co., Inc. All rights reserved.

半導体市場における台湾の重要性

パッケージ基板

■ Taiwan ■ Other

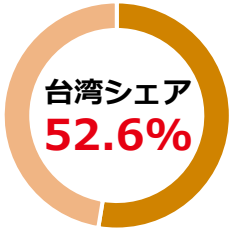
半導体ファウンドリー



■ Taiwan ■ Other

※ファウンドリー
：自社で設計は行わず、“前工程”である半導体プロセス開発や製造をメインとする企業

半導体後工程OSAT

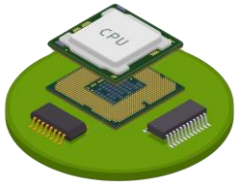


■ Taiwan ■ Other

※OSAT：実装メーカー
半導体の組立（ICチップとパッケージ基板など）や、テストなど“後工程”を専門とする企業

Outsourced Semiconductor Assembly and Test

台湾
パッケージ基板のトップ

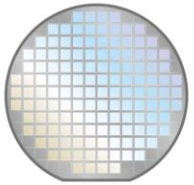


桃園

台北

新竹

台湾
半導体ファウンドリーのトップ



台湾OSATのトップ

高雄

エンドユーザー

出所: IEK, ITRI, March 4, 2024. Chia-Chen Lee, “Taiwan IC Industry Development in 2023Q4”

Copyright © 2024 Ajinomoto Co., Inc. All rights reserved.

台素社における業務内容

セールス＆マーケティング

商品の輸入出荷手配

Copyright © 2024 Ajinomoto Co., Inc. All rights reserved.

台素社における業務内容

テクニカル支援

製品の評価

海外事業展開

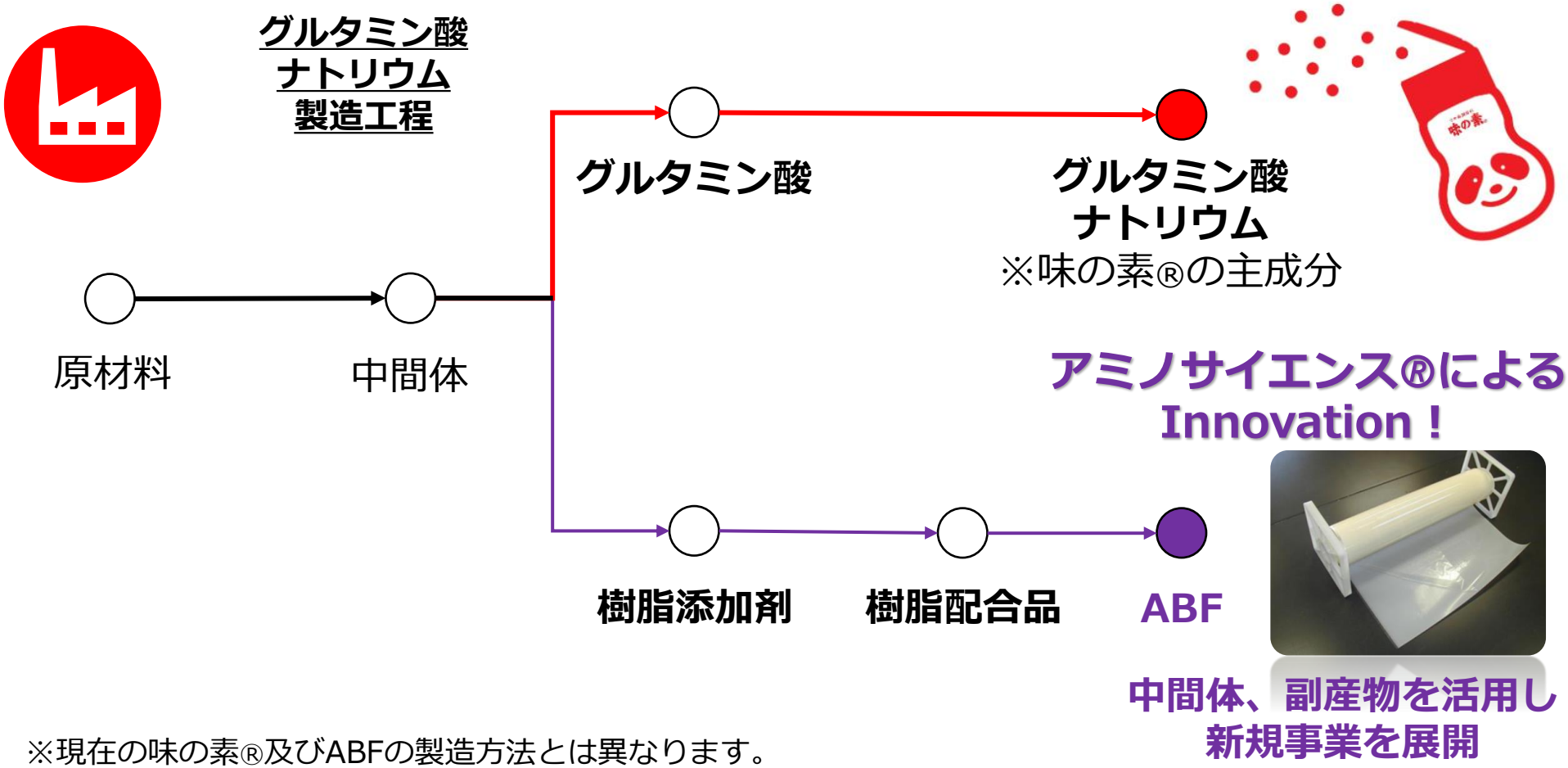
Copyright © 2024 Ajinomoto Co., Inc. All rights reserved.

台素社のご紹介

Copyright © 2024 Ajinomoto Co., Inc. All rights reserved.

味の素ビルドアップフィルム®
アミノサイエンスに®よるイノベーション

味の素®の製造方法の検討過程で発生した中間体、副産物を有効活用したいとの思いで研究開発を続け、1999年世界発のフィルム状の絶縁材料を発売。



※現在の味の素®及びABFの製造方法とは異なります。

Copyright © 2024 Ajinomoto Co., Inc. All rights reserved.

ABFを通じた、人・社会・地球のWell-beingへの貢献

5G 通信ネットワーク

クラウド / データセンター

AI（人工知能）

車載

教育

アミノサイエンス®で
進化する技術に対応し続け、
皆様の“Live well”を持続的に支える

スマートシティ

医療

宇宙

産業

省電力化

Copyright © 2024 Ajinomoto Co., Inc. All rights reserved.

本日の内容

1　味の素グループについて

2　電子材料事業

・味の素ビルドアップフィルム®（ABF）とは

・研究員によるABFのご説明

・台素社員によるグローバルネットワークのご説明

3. 成長戦略・株主様への還元

*本資料における事業利益（連結ベース）：
売上高－売上原価－販売費・研究開発費及び一般管理費＋持分法による損益

AJINOMOTO

2030ロードマップ ASV指標

2030年 ASV指標として、EPS約3倍（FY22対比）、ROE約20%を目指す。

ASV指標		FY23	FY24 中間期	FY24 修正予想	FY25計画	FY30計画
経済価値指標	ROE（Forge社連結影響除く）	11.0%（11.4%）		約12%（約13%）	18%	約20%
経済価値指標	ROIC（>資本コスト）（Forge社連結影響除く）	8.7%（9.4%）		約9%（約10%）	13%	約17%
経済価値指標	オーガニック成長率	1.7%	4.4%	約5%（期初予想7%）	5%（FY22-25）	5%~（FY25-30）
経済価値指標	EBITDAマージン	15.7%	17.4%	約16%	17%	19%
社会価値指標	環境負荷削減の取り組み	▲35% CO_2排出量（Scope1,2）		-	-	環境負荷50%削減（アウトカム）
社会価値指標	栄養コミットメント 栄養以外の貢献についての指標も今後検討予定	9.4億人		-	-	10億人の健康寿命延伸（アウトカム）
無形資産強化	従業員エンゲージメントスコア	76%	76%（速報値）		80%	85%~
無形資産強化	コーポレートブランド価値	1,625（実績 前年比+17%）		-	FY22比、CAGR 7%~	

（mUSD, Interbrand社公表値）

経営が示す挑戦的目標

【参考】EPS 約3倍（FY22対比）を目指す

ASVが飛躍的・継続的に向上し、ステークホルダー・社会にとって魅力的な企業であり続ける

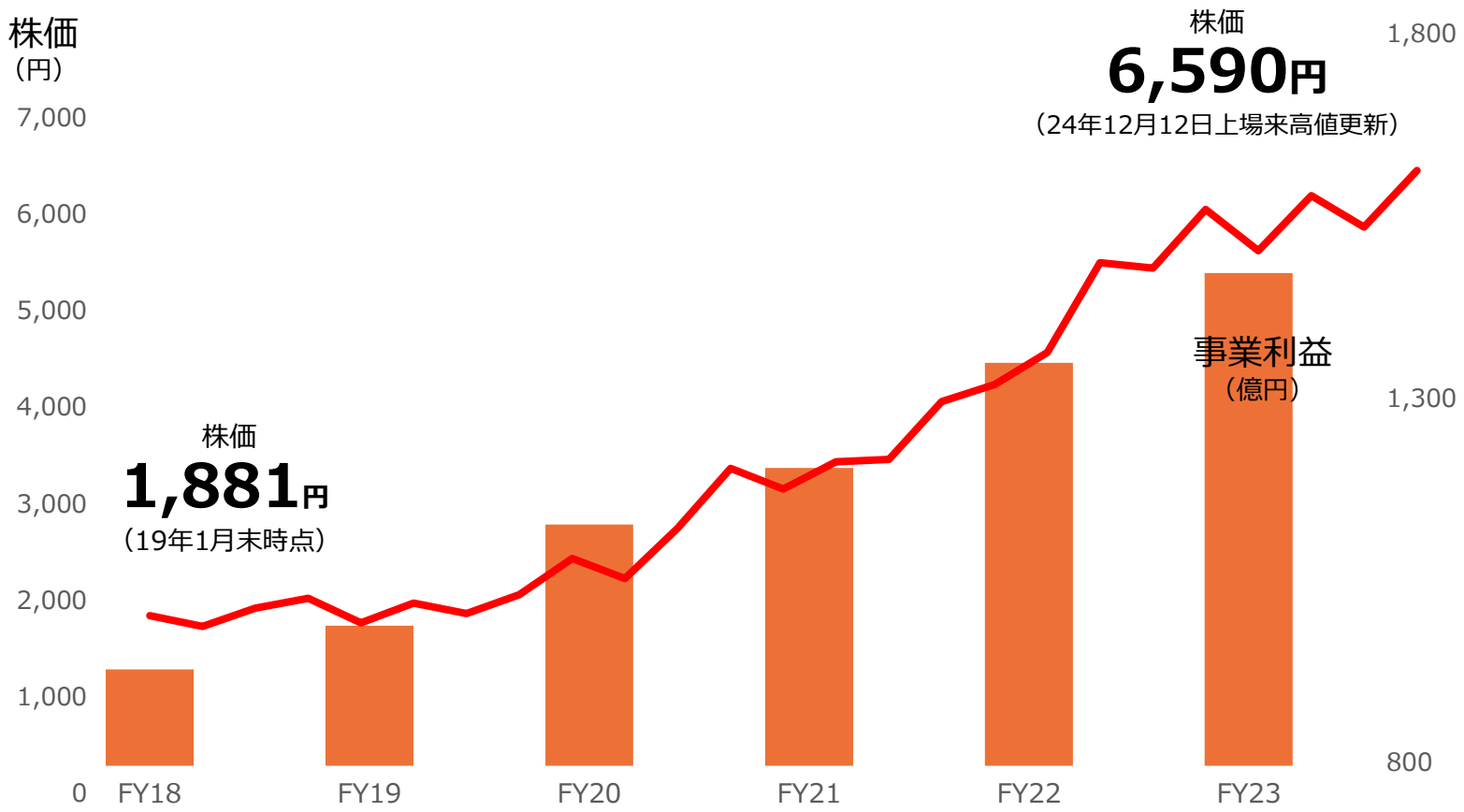
Copyright © 2024 Ajinomoto Co., Inc. All rights reserved.

事業利益と株価推移

事業利益では、2024年度、過去最高益を計画。１株当たり利益（EPS）では、2030年には2022年度対比で3倍を目指しています。

EPS３倍へ
(2030) 対FY2022

＜過去5年間の事業利益と株価推移＞

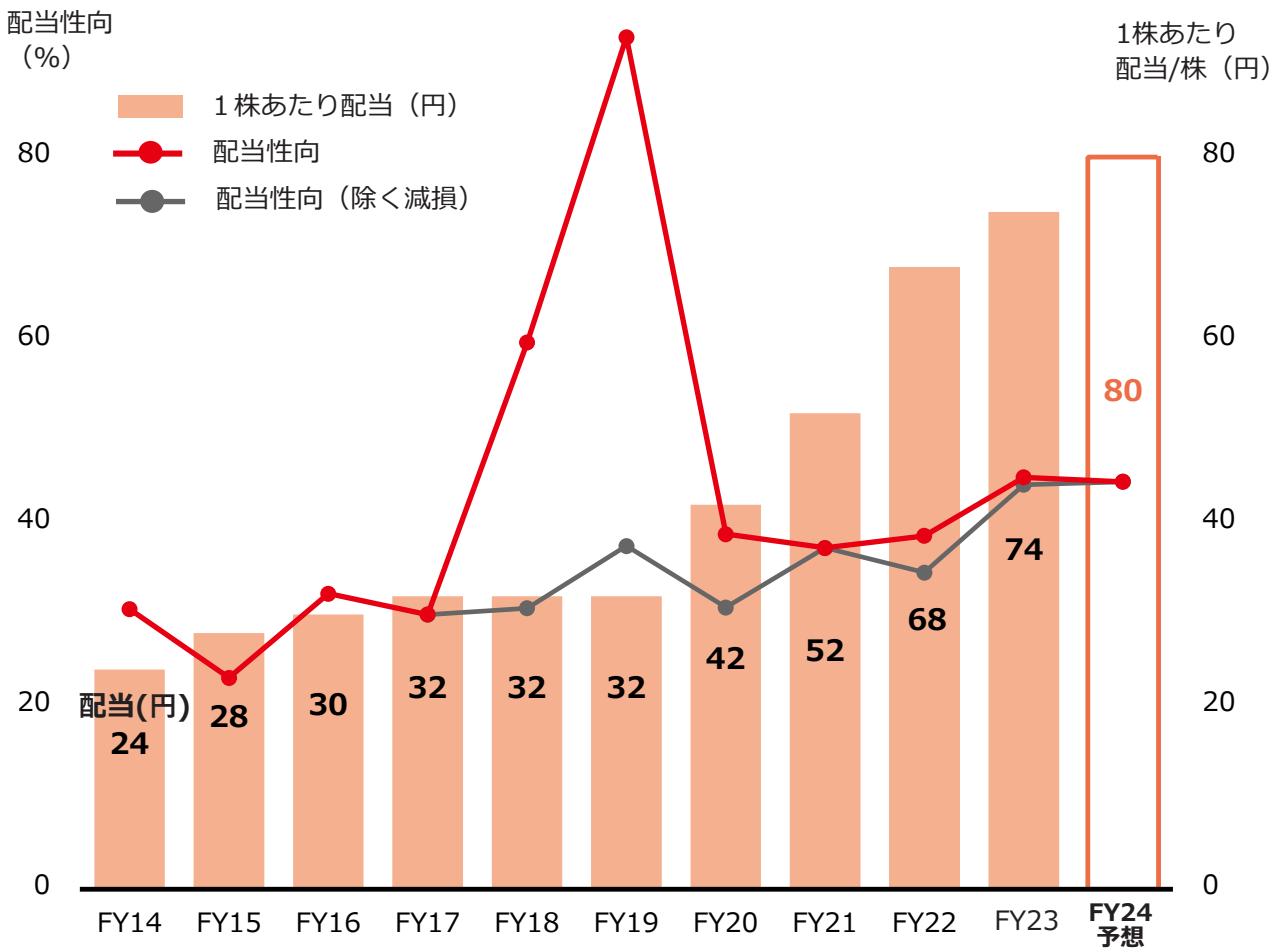


株価:2019年01月31日 - 2024年12月13日

Copyright © 2024 Ajinomoto Co., Inc. All rights reserved.

株主様への還元・株式分割

減配せず、利益成長に伴い増配または維持する方針。2024年度の自己株式取得は、上期500億円に続き、下期も400億円(上限)を予定。2025年4月1日に**1:2の株式分割**を実施予定。



FY24　配当予想

80円/年　前期 +6円

- 累進配当政策を導入
- ノーマライズドEPSに基づく配当*
- 総還元性向：50%～の方針

＊（事業利益×（1-味の素標準課税27%））
÷発行済み株式数×還元係数35%

FY24　自己株式取得

2024年5月9日発表

５００億円、１2.5百万株
上限とする自己株式取得済

2024年11月7日発表

４００億円、１0百万株を
上限とする自己株式取得

Copyright © 2024 Ajinomoto Co., Inc. All rights reserved.

株主優待制度

所有株式数	保有期間	優待内容
100株以上500株未満	100株以上を継続半年以上（注1）	1,500円相当
500株以上1,000株未満		3,000円相当
1,000株以上		4,000円相当
	1,000株以上を継続3年以上（注2）	7,000円相当

注１）株主優待の割当基準日（毎年３月３１日）において、株主名簿基準日（３月３１日および９月３０日）の株主名簿に100株以上の保有記録が同一株主番号で２回以上連続している場合をいいます。
注２）株主優待の割当基準日（毎年３月３１日）において、株主名簿基準日（３月３１日および９月３０日）の株主名簿に1,000株以上の保有記録が同一株主番号で7回以上連続している場合をいいます。

2024年株主優待品（一例）

味の素グループの食品詰め合わせセット

WEB限定で選べる優待品もあります♪

4,000円相当の一例

写真はイメージです

または

公益財団法人 味の素ファンデーションへの寄付

①食と栄養支援事業
②低所得国栄養改善事業
③栄養制度創設事業
④被災地復興応援
　健康・栄養セミナー事業

★ **2025年度の株主優待は、現行（上記）の制度に基づき実施します**。
2024年11月7日発表「株主優待制度の変更」は、**2026年度から適用されます。**

Copyright © 2024 Ajinomoto Co., Inc. All rights reserved.

株主優待制度（2026年度から適用）

【変更後株主優待制度】 ★ **2026年度から適用。**

保有株式数	保有期間	優待内容	
100 株以上 200 株未満	100 株以上を継続 半年以上（注 1）	「味の素グループ製品」または「寄付」	500 円相当
200 株以上 1,000 株未満			2,000 円相当
1,000 株以上 2,000 株未満			4,000 円相当
2,000 株以上			5,000 円相当
	2,000 株以上を継続 3 年以上（注 2）		8,000 円相当

注 1）「100 株以上を継続半年以上」とは、株主優待の割当基準日（毎年 3 月 31 日）において、株主名簿基準日（3 月 31 日および 9 月 30 日）の株主名簿に 100 株以上の保有記録が同一株主番号で 2 回以上連続している場合をいいます。
（注 2）「2,000 株以上を継続 3 年以上」とは、株主優待の割当基準日（毎年 3 月 31 日）において、株主名簿基準日（3 月 31 日および 9 月 30 日）の株主名簿に 2,000 株以上の保有記録（2025 年 3 月 31 日までの株主名簿においては 1,000 株以上の保有記録）が同一株主番号で 7 回以上連続している場合をいいます。

詳細は、以下当社ページをご覧ください。
株主優待｜株式情報｜IR情報｜味の素グループ

Copyright © 2024 Ajinomoto Co., Inc. All rights reserved.

株主様限定イベント

味の素グループの工場見学や味の素スタジアムなどの施設見学に参加いただけます。

■株主様施設見学デー

工場見学

味の素スタジアム

味の素ナショナルトレーニングセンター

■オンライン新製品説明会

■オンライン　株主様向け決算説明会

Copyright © 2024 Ajinomoto Co., Inc. All rights reserved.

味の素グループ事業のご紹介　トピックス

Eat Well, Live Well.

IR トピックス

味の素株式会社 グローバル財務部 IR グループ
〒104-8315　東京都中央区京橋 1-15-1

2023 年 12 月 15 日

～ナイジェリアの生活者の豊かな食生活に貢献する風味調味料～
ナイジェリア味の素食品社「DeliDawa™」

ナイジェリア味の素食品社の「DeliDawa™」という製品をご紹介します。

ナイジェリアの食生活に欠かせない「ダダワ（Daddawa）」という伝統的な発酵調味料があります。ダダワは、イナゴ豆を茹で、葉に包んで発酵させた後、挽いて丸めてペースト状にして作られ、スープ、シチュー、その他の料理に広く使われます。
ダダワを自宅で使用するのは手間がかかる上、衛生管理が難しく、また日持ちしないという課題がありました。こうした課題を解決するべく開発されたのが風味調味料「DeliDawa™」です。2020年の発売以降、発酵がもたらす独特なダダワの風味を衛生的かつ手軽に楽しめる調味料として、着実にナイジェリアの生活者に受け入れられており、この需要拡大に応えるべく、2023年8月には新工場も稼働しました。

ナイジェリア味の素食品社は、ナイジェリア、及び西アフリカ地域のすべての人々の健康と幸せ、そして将来世代のより良い生活に貢献する事を目指しています。今後益々の広がりが期待される「DeliDawa™」の生産・販売の現場の様子をご覧ください。

また、書籍「地球行商人」（著者：黒木亮氏）にも、当社グループが世界の食品市場を開拓してきたエピソードの一つに「DeliDawa™」が登場しております。よろしければ是非ご一読ください。

【↓画像をクリックするとリンク先動画に移ります】

参考
「DeliDawa™」紹介サイト:https://story.ajinomoto.co.jp/history/001.html
「地球行商人」中央公論新社サイト: https://www.chuko.co.jp/tanko/2023/10/005698.html

「IRトピックス」
投資家の皆様に当社事業をよりご理解頂くために、海外現地の様子などを、**短い動画とともに、月一回を目途にお届けしています。**

2023年 IRトピックス一覧：
https://www.ajinomoto.co.jp/company/jp/ir/news.html#2023_irtopics

2024年 IRトピックス一覧：
https://www.ajinomoto.co.jp/company/jp/ir/news.html#2024_irtopics

Copyright © 2024 Ajinomoto Co., Inc. All rights reserved.

Eat Well, Live Well.

AJINOMOTO®

- 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記載は、本資料の発表日現在における将来の見通し、計画のもととなる前提、予測を含んで記載しており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績は、今後様々な要因によって、大きく異なる結果となる可能性があります。
- 本資料には監査を受けていない概算値を含むため、数値が変更になる可能性があります。
- アミノサイエンス®は味の素株式会社の登録商標です。